



上越支部 稲田道場 所属

Mizuki Yamagishi

山岸 瑞綺 (ヤマギシ ミズキ)

『黒帯への道のり』 山岸 瑞綺

この度は昇段審査を受けさせて頂き、また、昇段のお許しいただき、誠にありがとうございました。先生、先輩方のご指導があったからこそ昇段できたものと、心から感謝しております。

泣き虫で、弱かった私は、少しでも自分を変えたいと思い、体験会に参加させて頂きました。初めて道場に足を踏み入れた時、先生、先輩方の迫力の凄さに圧倒され、その場で泣いてしまいました。それと同時に、そんな自分が情けなく、腹が立ち、「精神面の向上」、「護身術」として小学4年生の時に入門しました。

始めた当初は、新しい世界に自分から進んだ事をとてうれしく思い、がむしゃらに頑張りました。その頃は道場の中でも歳が上だったということもあり、力も強く、私は自惚れていました。しかし、初めての昇級審査、私は沢山の課題をつきつけられました。まず、組手です。私は自惚れていたということもあり、大きな自信に満ち溢れていましたが、初めての審査の組手の相手は自分よりも大きく、強くどんな攻撃も歯が立ちませんでした。その事実が自分の未熟さを教えてくれました。

次は、柔軟です。私は子供でありながらも体が硬く、審査では×という悲惨な結果でした。更に、体が硬いということは、主に、関節の動く範囲が狭い状態であり、型や移動、組手にも、大きな支障をきたしました。これらの課題はすぐに達成できるものではありませんでした。

ある日、私は岡田師範に柔軟で○をとること、拳立てで床に十回顎をつけることができなければ次の審査は受けさせられないと言われました。それは私が茶帯の審査を迎えようとしている頃でした。私にとってはそれがとても厳しいことでした。しかし、私はこの頃、大きな経験をたくさんし、「立ち向かう心」、「強い精神力」が出来上がっていました。そして、岡田師範からもらった課題を達成させ、茶帯の審査を受けさせてもらうことが出来ました。茶帯を縛ることが出来た時は今までには感じられないほどの感動しました。

そして、ついに昇段審査。一週間前から不安ができ、当日までその不安は消えませんでした。ですが、私は相手に立ち向かう姿勢・態度・強い気持ちを持って審査に挑みました。十人組手では痛い、辛いという気持ちより先に、自分の弱い気持ちに負けないように頑張りました。そして、十人組手を完遂することが出来ました。

私はこの約六年間「辛い」と感じる時があっても「嫌だ」、「やめたい」と感じることは、一度もありませんでした。それは先生方や先輩、仲間の支えがあり、優しさを感じられる稽古を受けていたからだと思います。

私はずっと目標だった黒帯を取得することが出来ました。ですが、これはゴールではなく、第二の新たなスタートラインだと思います。そして黒帯を持つについても、意識している事が前と同じではその黒帯に意味は無いと思います。私は黒帯としての責任を持ち、尊敬され、頼られるように稽古を積んで鍛えていきたいです。押忍

